

発掘調査の概要

藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡の調査

(飛鳥藤原第187次)

都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)は、2015年度冬に、本薬師寺のすぐ南に位置する橿原市城殿町で発掘調査をおこないました。藤原京の条坊呼称では西二坊大路とそれをはさんだ右京九条二坊西北坪と九条三坊東北坪にあたります。また調査地は、瀬田遺跡という遺物散布地として県の遺跡地図に登録されています。調査要因は、奈良職業能力開発促進センター(ポリテクセンター奈良)本館建替にともなうもので、藤原京では久しぶりの2,000㎡を超える面積の調査でした。

今回の調査は、まず8月から9月にかけて、旧本館解体にともなう立会調査から着手しました。昭和30年代に建てられた旧本館の基礎は思いのほか深く、基礎杭や縦横に走る地中梁、大型のゴミすて穴等で遺構面はかく乱をうけていました。かく乱土坑から弥生土器の破片が見つかるほどで、藤原宮期の遺構面はすでに破壊されているのではと思ったほどです。仮囲い設置等を終えた後、予定を繰り上げて11月末から重機掘削を開始しました。年内はかく乱土坑を掘りあげ、排水溝を廻らす等環境整備に努め、年明けから本格的な調査を開始しました。

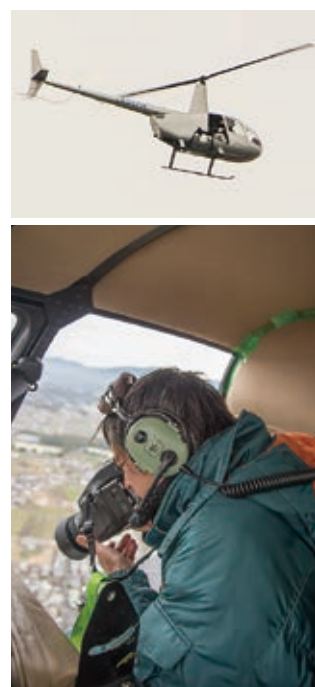


右京九条三坊東北坪の建物群(北東から)

その結果、遺構面から数十cmにもおよぶかく乱土坑を完掘すると、その壁面や底にも、遺構がわずかに薄く残存していることがわかりました。

今回検出した主な遺構は、西二坊大路、掘立柱建物10棟、掘立柱塀2条、溝3条、井戸1基、土坑2基等です。調査区西部の九条三坊東北坪では、整然とした配置の藤原宮期の大型掘立柱建物3棟を検出しており、計画的な建物配置が推定されます。一町ないしそれ以上を占める宮外官衙か、貴族の邸宅の一部を検出したのでしょうか。このほか、弥生時代に属する周溝墓を複数検出しています。その詳細は、現在鋭意調査をすすめているところですが、調査区中央で周濠のほぼ全貌を把握した径約18メートルの大型円形周溝墓を、冬現場班では親しみを込めて、「ポリテク1号墓」という愛称で呼んでいます。

この現場では、当初4月に計画していた全景撮影と空撮を3月初旬に前倒しして実施したため、空撮用ヘリコプターが整備中という軽微なアクシデントにみまわれました。代わりに手配できた機体は、窓の開閉ができないタイプ。重要な遺跡を窓越しに撮影する訳にもいかず、業者さんの提案でドアを外して飛ばすことになりました。撮影を担当した写真室の職員は、「映画の戦争シーンのようなヘリだ!」と、決死の覚悟(?)で八尾空港に出向いていきました。むろん、落下物防止が最重要ですから、機内ではシートベルトは当然として、カメラのストラップ部分は機内の鉄製のバーに通し、小物類はバッグへ収める等、いつも以上に万全を期したそうです。その結末や如何に。お水取りの時期でもあり、機内には寒風が吹き込みましたが、安全性に全く支障はなく、ドアがない分自由にカメラを構えることができたため、会心の調査記録を残すことができたようです。



上空での写真撮影の様子
(扉を外したヘリに搭乗)

(都城発掘調査部 山本 崇)